



昭和56年(1981)10月10日(撮影:初代富岡晴東)



平成28年(2016)11月13日(撮影:二代目富岡晴東)

▲オフィスビルが立ち並ぶ丸の内仲通り、赤レンガ街の風情はすっかりなくなりました。
 ▲撮影が進められた各道は通勤・通行人にとって歩きのオアシスとなっている。



昭和29年(1954)2月26日(撮影:初代富岡晴東)



三菱グループの創業者岩崎彌太郎の弟である岩崎彌之助は、皇居周辺に点在する兵營・練兵場を赤坂や麻布へと整理統合することでできた丸の内練兵場跡地33ヘクタールを持って余っていた政府から、周囲の批判を押し切り150万円で買い取った。これが「三菱丸の内」の始まりである。土地を引き取った岩崎はここに我が国初の西洋式最先端オフィス街を計画し、設計をイギリス人建築家コンドルに一任した。当時、まだ鉄道は新橋を起点に西へ東海道線が開通したばかりで、丸の内は不便な位置にあった。コンドルはこの区域にイギリス式レンガ造り3階建てのオフィス街を構想し、早

Iccho London,
Marunouchi

異国情緒漂う
丸の内仲通り

丸の内・二丁倫敦

くも明治25年(1892)に着工、明治44年(1911)までに完成させた。この建物が引き金となって、明治42年(1909)の山手線運行開始と、大正3年(1914)の東京駅新設、東海道線延長を促進した。以来、このモダンなオフィス街は「二丁倫敦」の名で親しまれ、サラリーマン憧れの地として東京のイメージを形作ってきた。しかし、1960年代以降、日本の土地事情の変化と、オフィス機能追求の波に押し流され、惜しまれながら次々と姿を消した。



★1枚目の写真の撮影地が赤い印で示されています。



昭和54年(1979) 7月5日 (撮影:初代富岡昭雄)



平成29年(2017) 1月21日 (撮影:二代目富岡昭雄)

▲渡辺仁設計の高級劇場として建設された日劇はこの後、再開発のため取り壊されることとなる。
 ▲日劇跡地に有楽町マリオンが立つ。昭和28年開店の不二堂も時代とともに高層ビル化した。



昭和34年(1959) 2月25日
 (撮影:初代富岡昭雄)



数寄屋橋は、慶長11年(1606)から江戸前島の背筋を掘削して、江戸城外濠を設けたときに架けられた。それから350年、自動車専用道路建設のため外濠が埋め立てられ、昭和3年に架けられた石橋も壊された。写真の日劇興、国電(現J丸)ガード越しに見える高層ビルは、まだ「マリオン」と名付けられたビルが建つ以前、関東大震災後に建った電気会館ビルディング。ガードの手前に昭和37年、東海道新幹線が増設された。さらに手前の丸い建物が有名な日劇。昭和8年12月開場以来、全国の人々に愛されたが、昭和56年、改築のために取り壊された。戦争末期の風船爆弾工場転用、

有楽町・日劇 建設中の首都高速

Nichtgeki, Yurakucho

戦後の宝くじ抽選会など、さまざまなエピソードも生んだが……。

中央の軍艦の艦橋を思わせるビルは昭和2年に建てられた朝日新聞社。かつてはこの上空を新聞社の伝書鳩の群れが飛んでいたものである。通信手段の少なかった昭和30年代では鳩の帰巣本能を利用して、離島や僻地からの情報は鳩の胸に結び付けられた筒に託した。

数寄屋橋上の首都高速(銀座線)と富士銀行ビルが建設途中だったこの場所は、モダンな複合ビルが林立している。



☆片一方目の真の撮影地が示されています。



昭和55年(1980) 8月23日 (撮影: 初代宮岡昭雄)



昭和33年(1958) 7月12日
(撮影: 初代宮岡昭雄)



平成28年(2016) 12月15日 (撮影: 二代目宮岡昭雄)

▲1970年代にスクランブル交差点が出現した。商業ビル群の急激な成長とともに通行人も増加。
▲高層百貨店業務が取り壊され、同じ位置からの撮影が不可能となった。



渋谷・スクランブル交差点

日本で最も有名になった交差点

Shibuya Crossing

撮影の足場に併りた東横百貨店(現東急百貨店)は、昭和9年に開業した東京初のターミナルデパートである。明治18年(1885)開通の山手線も、昭和2年開通の東横線も、昭和14年に全線開通した今の地下鉄銀座線も、このビルに吸い込まれていく。とくに地下鉄が一番高い3階で発着するというのが、当時は珍しがられた。

渋谷駅には、明治40年(1907)玉川電鉄が接続していたし、昭和8年には京王帝都電鉄井の頭線も開通して、東京で最も賑やかなターミナルだった。そして当時から国電秋葉原駅とともに、乗り換えの難所とされていた。

そんな渋谷駅前にある「スクランブル交差点」の起りは1909やパルコなど若者向けの商業施設ができた1970年代中頃と言われる。現在、最も多いときで一度に3000人も人が渡るといふ名物交差点目当てに海外から観光客が数多く集まり、ツアーが組まれるほどである。平成26年頃からは、ハロウィンの日にさまざまな仮装をした若者で溢れかえる現象が見られるようになった。



★一枚目の写真の撮影地点を示しています。